

令和3年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第1号（果樹）



※かんきつ地帯は南部を以下の通りに
区分けしています。

西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
東部：三原市以东の沿岸島しょ部

令和3年5月14日発表

対象期間 令和3年5月14日～6月上旬

※次回の予報は令和3年6月上旬頃です。

もくじ

- 1 農薬危害防止講習会の開催について …P.1
- 2 かんきつ病害虫の現況と予報（概要） …P.2
- (1)(2) かんきつ病害虫の現況と予報（詳細） …P.3～4
- 3 チャノキイロアザミウマ成虫発生予測 …P.4
- 4 果樹カメムシ類の発生動向 …P.5
- 5 気象情報 …P.5

●スマホでアクセス

ひろしま農業情報 QRコード →



●PCでアクセス

お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原 6869
電話：082-420-9662（直通）

広島県 ひろしま農業情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>

1

農薬危害防止講習会の開催について

広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。

令和3年度の農薬危害防止講習会の開催場所および日程が決定しました。

- 令和3年6月1日（火）広島県立農業技術センター（東広島市）
- 6月8日（火）三次市立十日市きんさいセンター（三次市）
- 6月15日（火）広島県情報プラザ（広島市）
- 6月22日（火）備後地場産業振興センター（福山市）
- 6月29日（火）呉市きんろうプラザ（呉市）

いずれの会場も、午前10時～12時、午後1時30分～3時30分の2回開催します。講習内容は同じなので、午前あるいは午後のどちらかを受講してください。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、講習会を中止する場合があります。開催に関する情報は、上記の「ひろしま農業情報」の中でお知らせします。

●スマホでアクセス

農薬危害防止講習会に関する情報 QRコード →



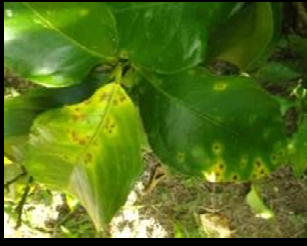
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項（防除時期）
かいよう病	少 ※発生なし	並	◆ 昨年かいよう病の発生が多かったほ場では、銅剤による防除を行う。ただし、樹勢が著しく低下している場合は控える。 ◆ 発生源となる罹病葉、枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出す。
そうか病	並 ※一部発生	並	◆ 発病した葉や枝を速やかに除去し、ほ場から持ち出す。
ミカンハダニ	並	並	◆ 冬季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場では、必ず3月中の高度精製マシン油乳剤散布を行う。 (※樹勢が低下している場合は、落葉する恐れがあるので注意する。)
ナシマルカイガラムシ	並 ※発生なし	並	◆ 樹冠内部の主枝、側枝にもしっかりと農薬がかかるように散布する。 ◆ 6月中下旬に防除を行う。
イセリアカイガラムシ	並 ※発生なし	並	◆ 6月中下旬に防除を行う。
ルビーロウムシ ツノロウムシ	並 ※発生なし	並	◆ 7月中下旬に防除を行う。
アブラムシ類	やや多	多	◆ 開花期防除を徹底する。 ◆ 発生が多い場合は、薬剤抵抗性に留意して、追加防除を行う。
黒点病	—	—	◆ 旧葉や取り残しの果実に黒点病が発生しているほ場では、速やかに除去し、ほ場から持ち出す。 ◆ 今後の気象予報に注意し、早めに防除を行う。

【発生量について】

「予報」「現況」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分の方法は、原則として、過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

かいよう病

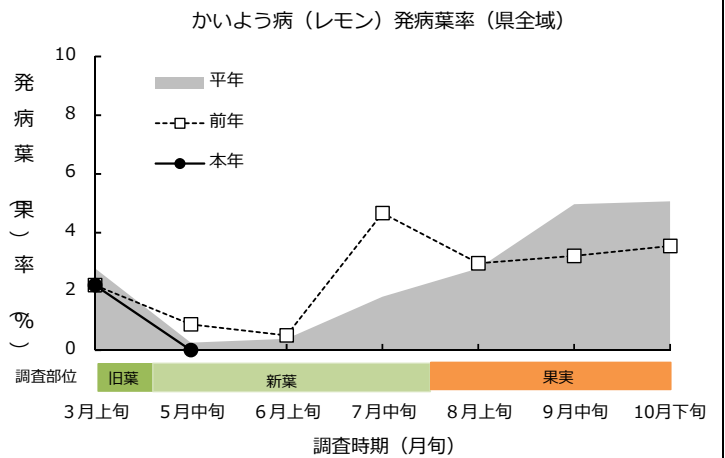
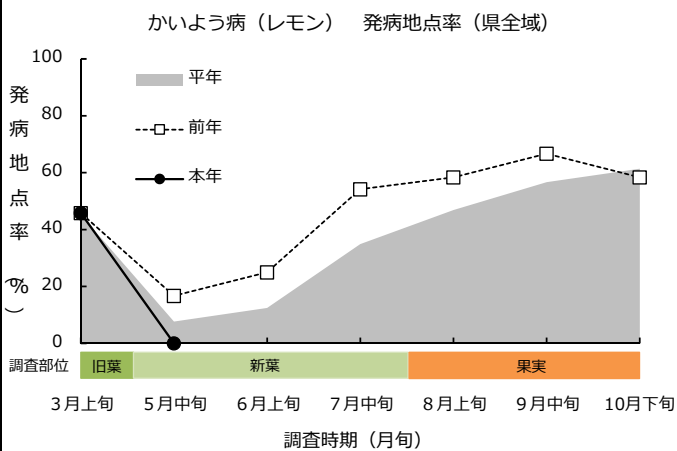
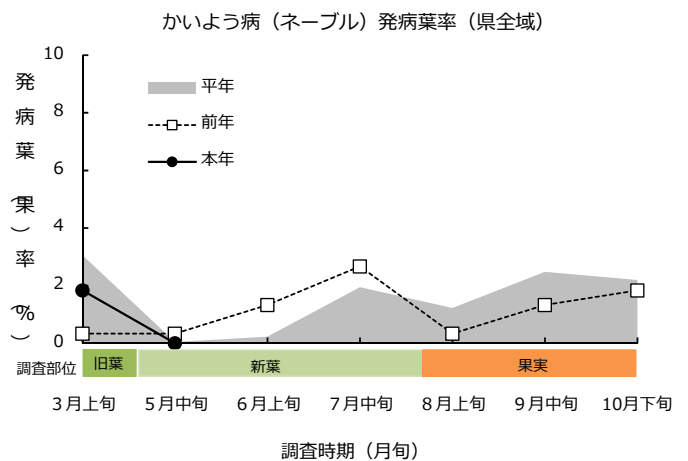
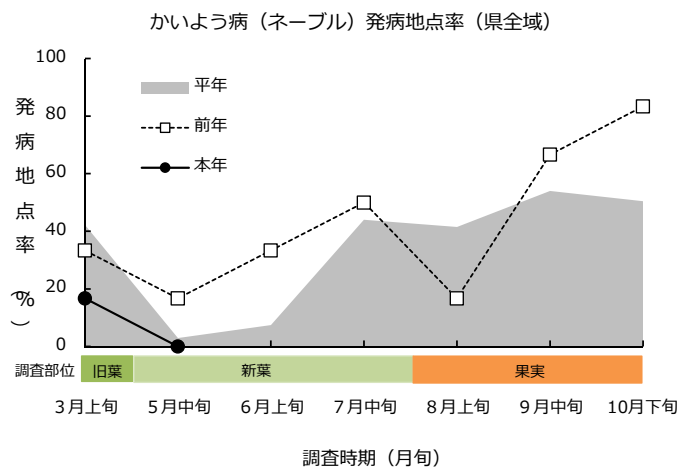


現況	予報の根拠
少 (新葉での発生無し)	◆巡回調査では、発生は、平年と比較して少なかった(-)。 ◆向こう1か月の気温は高い確率が70%、降水量は多い確率が60%、日照時間は少ない確率が60%と予想されている(+).
予報	
並	


(+) : 多発要因, (±) : 平年並み, (-) : 少発要因

- ・ 発病した葉や枝は伝染源となるので樹上から除去し、ほ場外に持ち出す。
- ・ かいよう病が発生しやすい品種は5月下旬に銅剤による防除を行うが、寒波被害等により樹勢が著しく低下している場合は散布を控える。
- ・ 高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あける。
- ・ マンネブ剤、マンゼブ剤とは混用せず、これらの剤との散布間隔は7日以上あける。
- ・ 無機銅剤（コサイド剤など）の散布を行う際、クレフノン（希釈倍数：200倍）を加用する。

【巡回調査データ】

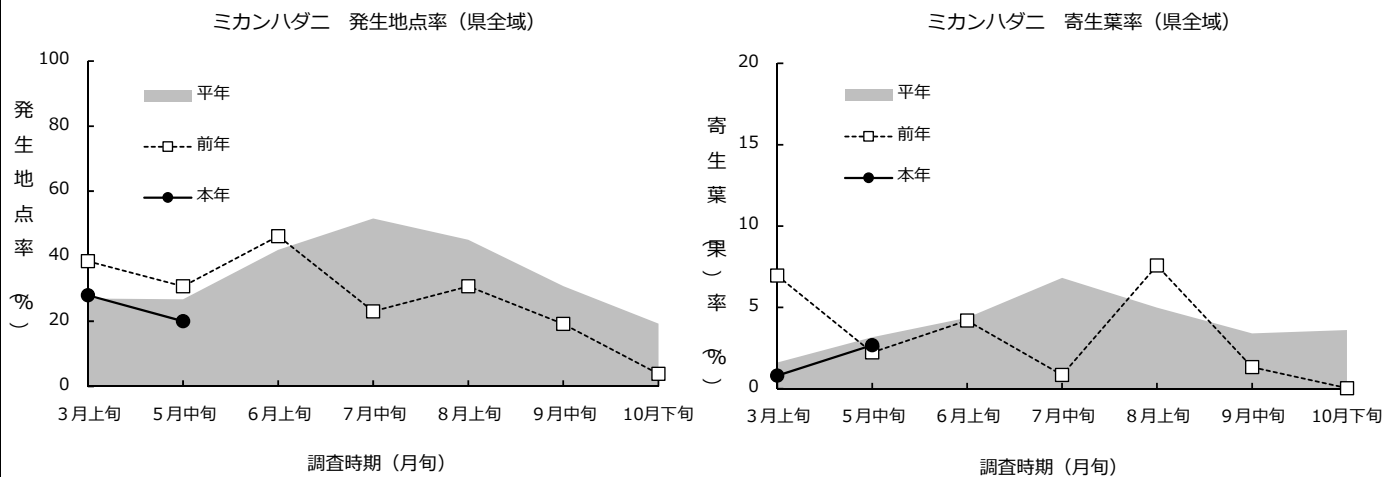


(注) レモン、ネーブルで調査

(2)	ミカンハダニ		
ミカンハダニ	現 況	予報の根拠	(+): 多発要因, (±): 平年並み, (-): 少発要因
	並	◆ 巡回調査では、平年並みの発生であった (±)。 ◆ 向こう1か月の気温は高い確率が70%, 降水量は多い確率が60%と予想されている (±)。	
	予 報		
	並		

・ 梅雨明け後の多発を予防するため、6月中下旬も高度精製マシン油乳剤を散布する。ただし、寒波被害等により樹勢が著しく低下している場合は散布を控える。

【巡回調査データ】





3	チャノキイロアザミウマ成虫発生予測
 	<p>チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、果樹園に飛来する。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなる。</p> <p>チャノキイロアザミウマは、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期(発生ピーク)を予測することが可能である。防除適期は、発生ピークの7日前からピーク当日が効果的であることが分かっている。</p>

表1を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行う。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第1世代	第2世代
平年より高い (+1℃)	5月19日	6月16日
平年並	5月19日	6月18日
平年より低い (-1℃)	5月20日	6月21日

※生口島アメダスデータに基づく

4

果樹カメムシ類の発生動向

昨年度末の調査の結果、チャバネアオカメムシの捕獲地点率は10.5%、1か所あたりの平均虫数は0.1頭と過去10年の中で3番目に低く、やや少ない越冬量となりました(図1)。現在のところ発生は少ないですが、今後の発生に注意してください。

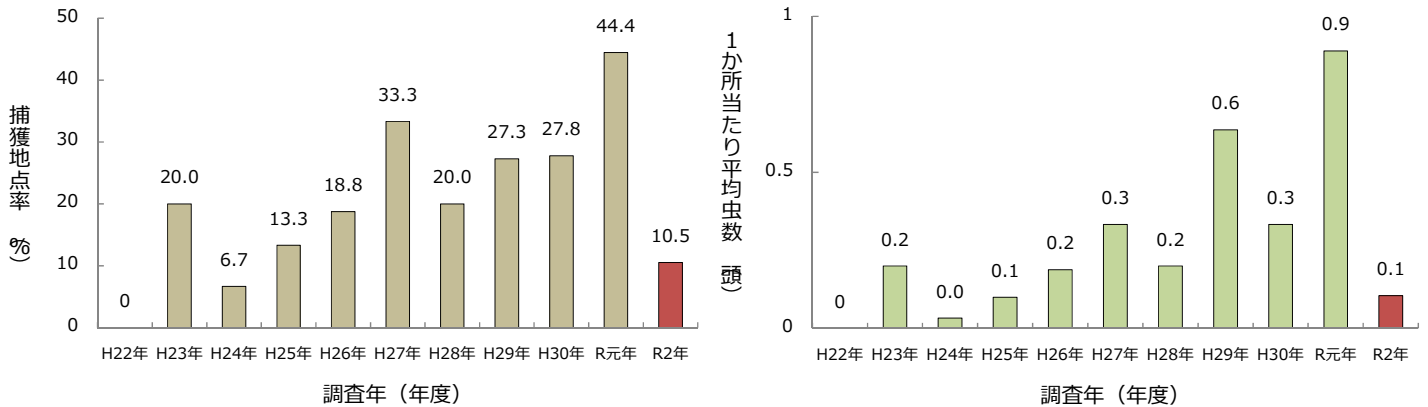


図1 チャバネアオカメムシの越冬量調査結果
左) 捕獲地点率, 右) 1か所あたり平均虫数

5

向こう1か月の気象情報

中国地方1か月予報

(広島地方気象台 5月13日発表, 5月15日から6月14日までの天候見通し)

- ・ 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%です。降水量は、多い確率が60%です。日照時間は、少ない確率が60%です(図2)。
- ・ 週別の気温は、高い確率が1週目は80%、2週目は60%です。3~4週目は、平年並みまたは高い確率が60%です(図3)。

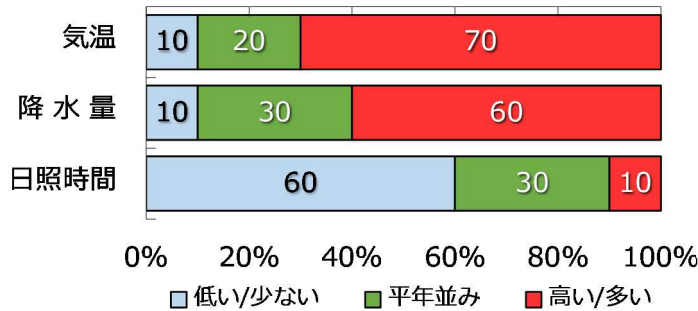


図2 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

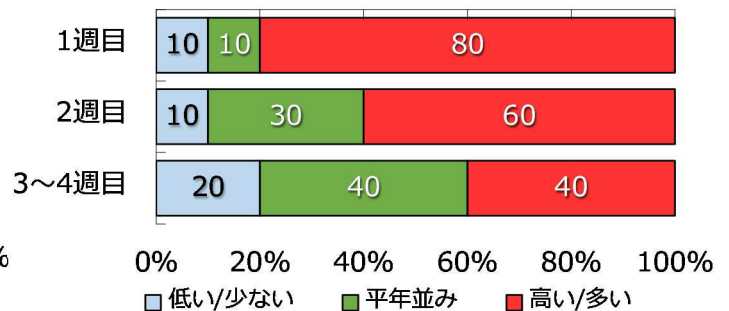


図3 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)